

地域を支える医師

出席者 高久史麿先生 日本医学会 会長・公益社団法人地域医療振興協会 会長
中村伸一先生 おおい町国民健康保険名田庄診療所 所長
迫田朋子氏 NHK 制作局エグゼクティブ・ディレクター

司 会 山田隆司 地域医療研究所長

地域の医師に求められること

山田隆司(司会) 今日は日本医学会 高久史麿会長, 福井県の名田庄診療所の中村伸一先生, そしてスペシャルゲストとしてNHKの迫田朋子さんにお集まりいただきました。6月に浅草で開催される日本プライマリ・ケア連合学会学術大会の大会長を私が勤めさせていただくのですが, その際の区民公開講座に皆さんに登壇していただくことになっています。今日はその前哨戦のような形でお話を伺いたいと思います。

まず中村先生から, 地域医療を担ってきた経緯と, 今議論が盛んな総合診療医についてお話しいただけますか。

中村伸一 私は平成元年に自治医科大学を卒業して福井県立病院でスーパーローテート研修を受けました。われわれの世代ではスーパーローテート研修は一般的ではありませんでしたが, 福井県は1年目に内科, 外科, 小児科, 産婦人科, 麻酔科, 救急をローテートし, 2年目は内科系, 外科系を選ぶという形でした。私は外科系を選びましたので, 脳外科, 整形外科, 救急, 麻酔科, 泌尿器科を回り, 最後の半年間は外科にいました。

それで3年目でいきなりへき地の診療所に1人で行くことになり, 人口3,000人の旧名田庄村に赴任したのです。スーパーローテート研修を受けていたし, 福井県立病院はER教育が充実していたので, 割と自信をもって臨んだのですが3日で自信はくずされました(笑)。研修では慢性疾患の患者さんを診ていなかったんですね。病院では慢性疾患は上級医に引き継ぐという役目だったので, 自分で最後まで責任をもって診るということをやっていなかったのです。また外傷が多く, 皮膚科や耳鼻科などの疾患もとても多くてかなり困りました。だから, 総合内科イコール地域医療では絶対ない。プラスαがないと地域医療はできないと思いました。

それからへき地の診療所ではコンサルトをするタイミングが難しい。へき地ですから私が紹介状を書いても紹介先の大きな病院に行くまでには少しハードルが高くなります。その紹介のタイミングが難しいんですね。自分がかかなり粘って引きずってしまって, とことん具合が悪くなってから「お願いします」と紹介すると, 患者さんは「それ



中村伸一先生

なら最初から紹介してくれればよかったのに」と思ってしまうでしょうし、紹介するのがあまりに早すぎると「それなら最初から病院に行けばよかった」ということになってしまいます。結局私はいてもいなくても同じなのかとすごくジレンマに陥り、紹介するたびに苦しんだ覚えがあります。

もっとつらかったのが、自分の能力以上のことを求められても逃げられないということですね。たとえばネフローゼ症候群の3歳の患者さんがいました。ステロイド抵抗性なので免疫抑制剤を使っていて、大阪の腎臓が専門の小児科医と連携しながら普段の診療はこちらで診ていました。普通の小児科でも難しいのに、小児科の中でも腎臓

の専門医しか診られないような疾患の日常的な管理をせざるを得ない。これはすごく難しかったですね。でも能力以上のことであっても逃げられないのです。

さらにコミュニケーションにも実はとても苦しみました。例えば大きな病院に入院して外科で胃癌の手術をした後の食事指導や、高血糖で意識障害を起こして運ばれてきた人に対して入院中に糖尿病の指導をするのは、割とこちらの話を素直に聞いてもらえるのです。病院に入院というのはその患者さんにとっては非日常的なことです。そこでは自分の病のことが頭の中の98%くらいを占めているわけですね。ところが日常診療というのは患者さんが患者さんであるのは診察室に入ってきたときだけなんです。一歩診察室を出たらもう患者さんではない。商売、仕事、家庭のことがあって近所付き合いがあって、趣味があって、いろいろなものがある中で健康問題があるわけです。そういった人たちとコミュニケーションするときには通り一遍の分かりやすい説明では通じない。相手の生活や考え方、健康に対する価値観などを理解した上でコミュニケーションをとらなければいけないというところがある。そういうことが初めは分からなかったのです。それに1年くらいは苦しみました。

地域医療がライフワークに

中村 そういったことで苦しんでいるうちに、寝たきりのお年寄りをフォローしたり、病気になる前に予防したりすることがうちの地域ではあまりできていないと感じ始めたので、診療所と役場住民福祉課、社会福祉協議会が共同で「健康と福祉を考える会」を結成し、デイサービスや訪問看護な

どを開始しました。そして平成11年には診療所と保健福祉センターが一体化した施設「あっとほ〜むいきいき館」が完成しました。その後診療所長だけではなく村の保健福祉課長に任命され、小さい村の保健医療福祉の統括責任者として議会で答弁したりするようになりました。